

第1群の座長をつとめて

毛利 駒 江

看護の現場では、さまざまな健康上の問題が刻々と発生する。看護職者は、昼夜をとうしてそれらの問題に取り組んでいる。数多くの問題の中から、自分も含め、特に多くの人たちが困っている問題を取り上げ、より良い解決の手がかりを得たいと思う。このような願いを、現場で働く看護婦は誰でも持ちながら、

- 1) 何とかしたいと思うことがあった。
- 2) その事実を調べてみた。
- 3) その結果、わかってきたことがある。
- 4) そして、どうすれば良いかと対策をたてた。

このような体験をまとめて発表し評価を受ける。このことこそ看護の現場における看護研究の真髄ではないかと思う。そして、その看護研究にどんな結果が出れば成功したと考えるのかである。このことについては研究の目的がどこにおかれているかによっても異なってくる。看護の現場では、看護業務に集中することが本務である。ゆえに、現場における看護研究の目的は、看護業務の改善である。研究することそのものが目的ではない。

研究における評価は、事実にもとづいて考えているか、その研究をすることによって看護業務に変化をきたすことが出来たのか、看護をすることがこれまでより充実して感じられるようになったのか、からなされるものだろうと考える。それぞれの研究から多くのことを学ぶために、自分が学ぼうとする視点を(評価の基準)ははっきりさせておきたいと思う。

主な質問

1 席

子宮筋腫群と子宮筋腫を持たない群の比較検討について

明らかに子宮筋腫を持っていないといえる立証はあるのか

超音波検査などで実証していない限り研究としての信憑性がうすい

表3の味付けの好みについて

濃い、普通、薄いはどういう基準によるものか

味覚は習慣によっても異なり客観性に乏しい。

塩分とビタミンAと脂肪を控えた食生活が望ましいと述べているが

成人病のほとんどについていえることである。子宮筋腫について考えられる科学的根拠はどこにあるのか

2 席

勉学と仕事を両立させながらの学生に対してどのようなかわりに留意しているのか経過を追って調査しているがフォローはどのようになされているのか

AMIの対象範囲はどのくらいなのか

3 席

血液寒天培地の培養について

48時間としているが、コロニーの発生する時間によって異なるのではないか

コロニーの判定は何によってなされたかコロニー数による皮膚汚染度の判定基準は何か

剃刀以外の方法による除毛と細菌数の検討はなされなかったのか